

2023年頭所感



一般社団法人日本アルミニウム協会
会長 水口 誠
(株式会社神戸製鋼所 副社長執行役員)

新年あけましておめでとうございます。年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、コロナ禍の余波が続く中、2月に始まったウクライナ紛争の問題は依然として収束の兆しが見えず、半導体不足や部品供給不足などサプライチェーンの混乱も続いております。加えて、電力や原油、重油、LNGなど原燃料価格の上昇、物流費や副資材費の値上がり等、アルミ産業の基盤を揺るがす事態も長期化しております。

こうした中、政府が目指している新しい資本主義の実現に向けて、適切な価格転嫁により、高騰している原材料・エネルギー等のコストをサプライチェーン全体で負担することが課題となっております。当協会では会員企業の取引先での価格転嫁が円滑に進められるよう、昨年、会員企業を対象として、アルミ製品製造に係るコスト及び価格転嫁の状況に関するアンケート調査を実施しました。原燃料、物流・梱包、副原料等のコストについて、2021年と比較して2022年はどれだけ変化したかを調査したものです。いずれのコストも2022年は上昇しているものの、十分に価格転嫁できていない実態が明らかになりました。今年も状況を見ながら適正な価格転嫁に関するフォローをしていきたいと考えています。

脱炭素に向けた取り組みも進めてまいります。昨年1月に「アルミニウム圧延業界の2050年カーボンニュートラルに向けたビジョン」を策定し、展伸材製造時の国内CO₂排出量実質ゼロを目指すことを公表しました。その目標達成に向けて、重点的に取り組んでいるところです。

その一つが資源循環リサイクルの推進です。アルミはリサイクル利用することにより、エネルギー使用量とCO₂排出量を大きく削減することができます。「アルミ循環委員会」傘下に立ち上げた「自動車」、「アルミ缶」、「スクラップ見通し」の3分科会で課題を明らかにするとともに、課題解決の仕組み作りを進めているところです。昨年5月にはアルミスクラップ回収量の見通しを公表し、一つの成果を出しました。

自動車で利用されるアルミについて、リサイクル材の利用も進めていきたいと考えています。本来であれば「Car to Car」が理想ですが、回収量やコストを考えると現実的ではありません。一方、アルミサッシは基本組成が自動車向けアルミと同じで、回収ルートも確立されているため量も確保しやすく、自動車材として使える優れたリサイクル材です。このため、「Sash to Car」が実現可能であると考え、自動車分科会で鋭意検討しているところです。

また、国内で回収されたUBC（使用済みアルミ缶）の輸出数量は、統計を取り始めた2015年度は約4万8千トンだったのが、2021年度は約8万4千トンと70%以上も増加しており、昨今の円安の影響もあり、今後も増加することが懸念されます。回収されるアルミは、貴重なマグネシウム、シリコン等を含んだ合金であり、再生利用することでこうした貴重な金属も回収することができます。資源の有効活用およびリサイクル推進の観点から、国内で循環させることが重要であり、自治体も含め多くの人の理解を得るよう努力してまいります。

さらに、イノベーションにも取り組んでいます。リサイクルアルミの使用比率を上げていくために鍵となる「不純物低減」と「不純物無害化」の技術開発に向けて、2021年8月から国家プロジェクトとして、自動車メーカー、大学、国の研究所、素材メーカーと共同で研究開発を進めているところです。

また、従来からの協会事業の3本柱であります「新規需要の開拓」、「人材育成」及び「広報活動の強化」も引き続き行ってまいります。

このうち「人材育成」については、会員企業の技術者・研究者を対象とした「中核人材育成講座」をオンラインで開催しました。材料、溶解鋳造、熱処理、加工の4コースとも、遠隔地からも多くの受講者があり、好評のうちに終了致しました。本年はコロナ感染の状況を見ながらですが、できるだけ対面での開催を実現したいと考えております。また、大学への研究助成を通じ、業界の将来を担う人材の発掘と育成にも引き続き注力し、会員企業の技術者・研究者による大学での出張講義も継続してまいります。

「広報活動の強化」につきましては、ツイッターを活用した積極的な情報発信を行っております。消費者に身近なアルミ缶をはじめとして、自動車、鉄道車両などの最新情報を定期的に更新しており、フォロワー数も増加しています。これからは、広くアルミを知ってもらう広報だけではなく、より分かりやすく具体的な情報発信を行っていきたいと考えております。

SDGs やカーボンニュートラルの実現に向けて環境問題やリサイクルがクローズアップされる中、アルミニウムは省エネルギー、CO₂排出抑制に貢献できる素材です。優れたリサイクル性を有するアルミニウムの特性が注目され、他素材からもアルミ製品に切り替える動きが出つつあります。これから、資源循環経済やDX (Digital Transformation)、GX (Green Transformation) 等に必須な素材となります。こうした動きを好機と捉え、『社会が抱える課題にソリューションを提供できる協会』として、多くの皆様にお役に立てるよう種々の活動に取り組んでまいります。

日本のアルミ産業と皆様の益々の発展を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

以 上